

“周年” “記念年” の認知に関する日伊比較対照

— 記念切手を資料として —

古 浦 敏 生

§1 はじめに

『広辞苑』によれば、“周年”とは“ある時から数えて過ぎた年数”とされている。したがって、たとえ何年であっても、それだけの年数が経てば“〇〇周年”と銘打って、記念行事を行なったり、記念誌を刊行したりすることは可能である。しかし、こういった記念事業を行なうにふさわしい年数ということになると、ある程度決まった年数が好まれる傾向があると思われる。たとえば『広島文理科大学創立 50 周年』『大修館書店創業 65 周年「言語」』『生誕 100 周年記念「南薫造展」』などはあるが、51 周年とか 102 周年とかいった記念年は見当たらない。区切りの良い年数を記念年とする考えは、多くの民族で共通であろうと推測できる。但し、何年をもって区切りの良い年とするかということに関しては民族差も存在するであろう。

筆者は長年、日本語とイタリア語との対照言語学をテーマとしている。その一環として今回、日伊両国民の“周年”の認知について、1913 年から 2013 年までの 100 年間に発行された郵便切手（とりわけ記念切手）を資料として、調査してみようと思う。

§2 日本の郵便切手とイタリアの郵便切手

郵便切手にまつわる日伊文化交流として、イタリア人版画家による印刷指導が挙げられ



(イタリア 1988 年発行)

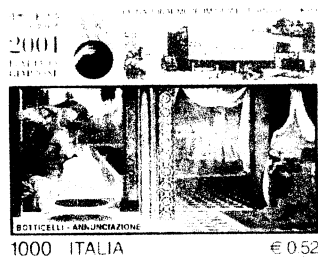


(日本 1994 年発行)

る。日本における最初の郵便切手「竜文切手」(1871年発行)は手彫りの木版刷りであった。郵便部数が年々増加し、手彫り印刷では需要に追いつけなくなり、1876年、エドアルド・キオッソーネ(Edoardo Chiossone 1832-1898)が招かれ、日本でも凸版印刷が導入されることとなった。彼の肖像と凸版印刷の「旧小判切手」をあしらった記念切手は日伊両国で発行されている(前ページ参照)。

ここで、日伊両国の切手・郵便事情に共通する特徴について触れておこう。

- ① 時期的には大差があるが、日伊両国とも、地方切手が発行されている。日本では1989年から、イタリアでは(共和国としての統一以前の)1851年から発行開始されている。
- ② 郵便番号制度がほぼ同時期(日本では1968年7月、イタリアでは1967年7月)に導入されている。
- ③ 日本では「切手趣味週間(1948年以降)」・「ふみの日(1979年以降)」という記念切手が毎年発行されている。イタリアでも1959年以来 *Giornata del francobollo* 「切手の日(1986年以降「切手収集の日」と改称)」という記念切手が毎年発行されている。前ページのキオッソーネの切手も「切手の日」の切手である。
- ④ 「日本におけるイタリア2001」と題して、両国共通の図柄(ボッティチェッリの「ヴィーナスの誕生」と「受胎告知」)の記念切手が同年に発行されている。



(日本2001年発行) (イタリア2001年発行。左上に日本語も)

§3 イタリアの記念切手の特色

日本ではイタリアの記念切手に関する記述は乏しいので、ここで、その特色について簡潔に触れておきたい。なお、【 】内の数字は発行年である。

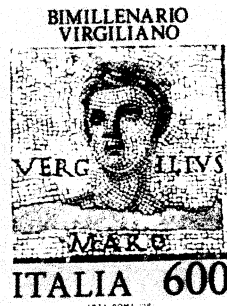
イタリアの記念切手は、当然のことながら、キリスト教の影響が大きい。たとえば、「聖書布教教会300年【1923】」「聖骸布400年【1978】」「シエーナの聖女カテリーナの列聖式500年【1962】」「モンテカッシーノ修道院建立1400年【1929】」「聖女ルチア殉教1700年【2004】」「聖パウロのローマ到着1900年【1961】」など。

また、古い伝統を誇る大学についても「フェッラーラ大学開校600年【1992】(次ページ参照)」「ローマ大学開校700年【2003】」「ボローニャ大学開校900年【1988】」などが見られる。



(創設者エステ家のアルベルトV世と大学)

このほか、さまざまな時代の文人や芸術家に関する切手として「(詩人)レオパルディ生誕 200年【1998】」「ミケランジェロ没後 400年【1964】」「レオナルド・ダ・ヴィンチ生誕 500年【1952】」「(作家)ボッカッチョ没後 600年【1975】」「ダンテ生誕 700年【1965】(下図左)」「(詩人)ウェルギリウス生誕 2000年【1930】(下図右)」「(弁論家・政治家)キケロー没後 2000年【1957】」などがある。



(中世最大の詩人ダンテ(1265-1321)) (ダンテの師ウェルギリウス(前70-前19))

また、イタリアらしい記念切手として「マフィア撲滅本部設置 20年【2012】」「イタリア・サッカー協会設立 75年【1973】」「メッシーナ大地震 100年【2008】」を指摘しておきたい。

§4 日本における“周年”の認知

最多の用例は100周年で、「(葛飾)北斎(没後)【1948】」「慶應義塾(開設)【1958】」「日本・ギリシャ修好【1999】」「米国への桜寄贈【2012】」など79例、次いで50周年で、「ブラジル移住【1958】」「昭和天皇在位【1976】」「日本プロ野球(発足)【1984】」「南極条約発効【2011】」など68例である。第3位は75周年で16例、それ以下になると、10周年が10例、さらに、それ以下は1桁の数字となる。

最小の数値としては「大東亜戦争1年【1942】(次ページ図左)」が、最大の数値としては「紀元2600年【1940】(次ページ図右)」がある。



(真珠湾攻撃)



(金鶏(きんし))

§5 イタリアにおける“周年”の認知

最多の用例は100周年で、「(電池の発明者)ヴォルタ没後【1927】」「イタリア山岳会【1963】」「(無線電信の)マルコーニ生誕【1974】(下図)」「(イタリア王国初代国王)ヴィットーリオ・エマヌエーレⅡ世没後【1978】」「(画家・彫刻家)モディリアーニ生誕【1984】」「ダンテ協会設立【1990】」「イタリア銀行設立【1993】」「オペラ上演開始【2000】」「イタリア国鉄開業【2005】」「(タイプライター工場)オリヴェッティ創業【2008】」など218例である。



(ノーベル物理学賞受賞のマルコーニ(1874-1937))

第2位は50周年で、「ヴェネツィア・ビエンナーレ【1949】」「第一次世界大戦勝利【1968】」「(作曲家)プッチーニ没後【1974】(下図)」「(革命家)グラムシ没後【1987】」「国際連合設立【1995】」「イタリア共和国発足【1996】」「トリノのサッカーチーム飛行機事故【1999】」「テレビ放送開始【2004】」「ローマ・オリンピック開催【2010】」「人類宇宙初飛行【2011】」「(シチリア島カタニーヤでの)潜水艦乗組員国際集会【2013】」など88例である。



(「蝶々夫人」でお馴染みのプッチーニ(1852-1924))

第3位は150周年で、「(作曲家)ロッシーニ生誕【1942】」「ユダヤ人解放【1998】」など49例である。次いで、第4位は200周年で「スカラ座開設【1978】」「(軍人・政治家)ガリバル

ディ生誕【2007】」など 41 例である。そして、500 周年が 37 例、400 周年が 31 例、それ以下は 20 例に満たない数となる。

最小の数値としては「ローマ・パリ姉妹都市縁組 3 年【1959】（下図左）」が、最大の数値としては「Homo Aeserniensis ホモ・アエセルニエンシス誕生 736000 年【1988】（下図右）」がある。この先史人はモリーゼ州のイゼルニア近郊の村で発見された。



(S.P.Q.R.はローマの紋章 Senatus Populusque Romanus 「元老院とローマ人民」)

§6 まとめ

日伊両国民にとって“周年”の最も一般的な認知は 100 周年であり、次いで 50 周年が挙げられる。年数の長さに関して、短期間としては日本では 1 周年、イタリアでは 3 周年と、ほぼ似通った数値である。ただ、長期間となると日伊両国間で比較にならないほどの大差が存在する。すなわち、日本では 2600 周年、イタリアでは 736000 周年である。

参考文献

- 日本郵便切手商協同組合編『日本切手カタログ 2014』JSDA
ていば一く通信総合博物館「日本切手のうつりかわり」1990
河島英昭監修『読んで旅する世界の歴史と文化……イタリア』1995 新潮社
インターネット検索「切手カタログ、イタリア、年代リスト (1861-2014)」
Coloralbum della Repubblica, album a colori per la collezione di tutti i francobolli di Italia-Repubblica, 1970, Genova
Catalogo italiano 1971, Firenze
Amministrazione delle poste e delle telecomunicazioni...francobolli emessi dall'amministrazione postale italiana nel 1974